

20. 7. 2004

日 本 国 特 許 庁  
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日                      2 0 0 3 年    7 月 1 5 日  
Date of Application:

出 願 番 号                      特 願 2 0 0 3 - 2 7 4 6 7 1  
Application Number:  
[ST. 10/C]:                      [ J P 2 0 0 3 - 2 7 4 6 7 1 ]

出      願      人                      株式会社京華クラフト  
Applicant(s):

REC'D 10 SEP 2004

WIPO

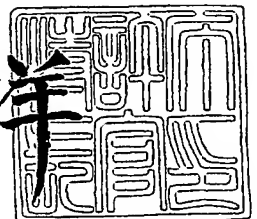
PCT

PRIORITY DOCUMENT  
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN  
COMPLIANCE WITH  
RULE 17.1(a) OR (b)

2 0 0 4 年    8 月 2 6 日

特許庁長官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

小 川 洋



【書類名】 特許願  
【整理番号】 P037000137  
【提出日】 平成15年 7月15日  
【あて先】 特許庁長官 殿  
【発明者】  
    【住所又は居所】 京都府京都市西京区山田猫塚町 1 7 番地の 8  
    【氏名】 稲生 京子  
【特許出願人】  
    【識別番号】 396013905  
    【氏名又は名称】 株式会社京華クラフト  
【代理人】  
    【識別番号】 100068032  
    【弁理士】  
    【氏名又は名称】 武石 靖彦  
    【電話番号】 (075)241-0880  
【選任した代理人】  
    【識別番号】 100080333  
    【弁理士】  
    【氏名又は名称】 村田 紀子  
    【電話番号】 (075)241-0880  
【手数料の表示】  
    【予納台帳番号】 039273  
    【納付金額】 21,000円  
【提出物件の目録】  
    【物件名】 特許請求の範囲 1  
    【物件名】 明細書 1  
    【物件名】 要約書 1  
    【包括委任状番号】 9814661

**【書類名】 特許請求の範囲****【請求項 1】**

a) 炭素数 1～3 の低級アルコールと b) エチレングリコール、ブチルジグリコール、ジエチレングリコール、グリセリン、チオジエチレングリコール、モノエチルグリコール及びエチルジエチレングリコールからなる群から選ばれる少なくとも一種の多価アルコールを 1～99：99：1 の重量比率で含有する溶媒に、紫外線吸収剤と香料を混合してなることを特徴とする生花を用いた造花の仕上げ剤。

**【請求項 2】**

染料を添加混合した請求項 1 の仕上げ剤。

**【請求項 3】**

生花の水分を、水に可溶性で、水より比重の小さい揮発性有機溶媒（A 液）で置換した後、前記有機溶媒を、ポリオキシエチレン誘導体溶液（B 液）で置換して、生花を長期保存出来る造花に製造するものであって、前記ポリオキシエチレン誘導体で処理した生花の表面の少なくとも一部に、請求項 1 又は 2 に記載された仕上げ剤を付与することを特徴とする、造花の製造方法。

## 【書類名】明細書

【発明の名称】造花の製造方法及びそれに使用する仕上げ剤

## 【技術分野】

## 【0001】

本発明は、生花を使用した造花の製造方法とそれに使用する仕上げ剤に関する。

## 【背景技術】

## 【0002】

生花を使用した造花の製造方法は、特許文献1には、水に可溶性で、水より比重の小さい有機溶媒で生花の水分を置換脱水し、その後、細胞膜を通過でき、かつ非親水性であって、常温で固体または液体で、事実上揮発しない物質に少量のポリオール類を混合したものを、花の細胞内に含浸させることが提案されており、その後、この種の方法について、特許文献2ないし6と多くの提案がなされており、ポリオール類に染料を添加した着色もなされているが、製品の長期安定性に問題があり、退色したり、花の形状に崩れを生じるなどの欠点があった。

【特許文献1】特開昭49-18730号公報

【特許文献2】特開昭54-10033号公報

【特許文献3】特表平4-505766号公報

【特許文献4】特開2000-191402号公報

【特許文献5】特開2001-2501号公報

【特許文献6】特開2001-131001号公報

【特許文献7】特開2001-233702号公報

## 【発明の開示】

## 【発明が解決しようとする課題】

## 【0003】

本発明は、このような欠点を解消し、生花を利用し、耐久性よく新鮮な状態で、鮮明な色を保持し、しかも、その花に相応しい香りを有する造花の製造方法及びそれに使用する仕上げ剤を提供することを課題とする。

## 【課題を解決するための手段】

## 【0004】

本発明では、生花を使用した造花の製造方法において、仕上げ剤として、

a) 炭素数1～3の低級アルコールとb) エチレングリコール、ブチルジグリコール、ジエチレングリコール、グリセリン、チオジエチレングリコール、モノエチルグリコール及びエチルジエチレングリコールからなる群から選ばれる少なくとも一種の多価アルコールを1～99:99～1の重量比率で含有する溶媒に、紫外線吸収剤と香料を混合してなるものを使用することにより、前記課題を解決した。

## 【0005】

この仕上げ剤は、前記特許文献1ないし7に記載されるような方法で製造された造花に対しても効果的に適用できるものであり、その適用は、前記造花の製造直後だけでなく、製造後時間を経過した場合であってもよい。いずれにしても、造花の新鮮さを増し、退色をも防ぐことができる。

## 【0006】

なお、この仕上げ剤には、任意に染料を添加使用することも可能であり、染料を添加したものを、予め着色した造花の一部に適用して、造花を自然なほかし色に仕上げることも可能となる。

## 【0007】

紫外線吸収剤及び香料、また任意に添加される染料の添加量は、特に限定されるものではない、溶媒に対して数%以下、例えば0.001～2%程度でよい。

## 【0008】

仕上げ剤のa)成分は、紫外線吸収剤(UVカット剤を含む)や香料の溶媒として機能し、これらを造花に浸透吸着させるのに役立つものであり、b)成分は、a)成分揮発後

、造花中に一部残存し、造花に潤いをもたせ、また、染料を使用する場合、その染着性を高めるのに役立つ。a) 成分としてはメチルアルコール、エチルアルコールを使用するのが好ましく、特にメチルアルコールの使用が好ましい。なお、a) 成分とb) 成分の配合割合は、重量比率で、1～99：99～1でよいが、5～95：95～5、特に10～90：90～10であるのが好ましい。

#### 【0009】

紫外線吸収剤及び香料は、仕上げ剤の溶媒と混和性あるものがいずれも使用可能であるが、紫外線吸収剤としては、例えばベンゾフェノン系及びベンゾトリアゾール系のものが主に使用され、香料は、生花の匂いと同種のものを使用するのが好ましい。

#### 【0010】

本発明による造花の製造方法で代表的なものは、生花の水分を、水に可溶性で、水より比重の小さい揮発性有機溶媒（A液）で置換した後、前記有機溶媒を、ポリオキシエチレン誘導体溶液（B液）で置換して、生花を長期保存出来る造花に製造するものであって、前記ポリオキシエチレン誘導体で処理した生花の表面の少なくとも一部に、前述の仕上げ剤を適用するものである。

#### 【0011】

A液としては、メチルアルコール、エチルアルコール、アセトンなどが使用可能であるが、メチルアルコールの使用が好ましい。また、B液としては、ポリオキシエチレン誘導体を含む溶液を使用すればよく、その溶媒としてA液と同種のもの、例えばメチルアルコール等を使用するのが好ましい。

#### 【0012】

生花の水分をA液で置換し、乾燥することにより、生花は腐敗することがない造花となるが、この際に、生花の色が脱色されるので、A液やB液に適宜染料を加えて使用してもよい。その後、生花にはB液を含浸させ、製品を生花同様、潤いのあるものとする。

#### 【0013】

本発明では、その後、前述の如き、仕上げ剤を製品表面の少なくとも一部に適用し、製品の形状安定性を高め、湿潤時の型くずれや色落ちを防止すると同時に、耐光性を高め、退色のない品質のよい製品となすのである。また、この際、製品には生花の如き香りが付与される。更に、仕上げ剤に適当な染料を添加使用することにより、花の色を自然な状態に調色することも可能である。

#### 【発明を実施するための最良の形態】

#### 【0014】

本発明の実施例を下記に示すが、これにより本発明が限定されるものではない。

#### 【実施例1】

#### 【0015】

#### 仕上げ剤Iの調製

メチルアルコール37%、ブチルジグリコール43%、エチレングリコール21%からなる溶液に、ベンゾトリアゾール系の紫外線吸収剤とローズ系の香料を添加したものを仕上げ剤とした。

#### 造花の製造方法

バラの花の水揚げを十分し、花の下、茎を1cm程残して切り落とし、メチルアルコール（A液）に浸し、2時間放置し、脱水脱色させ、その後、ポリオキシエチレンアルキルエーテルの67%メチルアルコール溶液（B液）に浸し、花にB液を含浸させ、取出した花の表面のポリオキシエチレンアルキルエーテルをメチルアルコールで拭き取り、その後、仕上げ剤Iに染料を添加したものを、濃淡2色準備し、花の表面に付着させた。

製品は、自然なバラと同様、色調に変化のある鮮やかな色調の香りのよい造花で、花卉の一枚一枚も、生花と同様の潤いあるものとなった。

この製品は、湿潤下に置いても、型くずれや脱色することなく、良好な品質を保ち、また、長期間放置しても、天然のバラと同様、新鮮な外観を保つものであった。

## 【書類名】要約書

## 【要約】

【課題】 生花を利用し、耐久性よく新鮮な状態で、鮮明な色を保持し、しかも、その花に相応しい香りを有する造花の製造方法及びそれに使用する仕上げ剤を提供する。

【解決手段】 生花を使用した造花の製造方法において、仕上げ剤として、

a) 炭素数 1～3 の低級アルコールと b) エチレングリコール、ブチルジグリコール、ジエチレングリコール、グリセリン、チオジエチレングリコール、モノエチルグリコール及びエチルジエチレングリコールからなる群から選ばれる少なくとも一種の多価アルコールを 1～99：99～1 の重量比率で含有する溶媒に、紫外線吸収剤と香料を混合してなるものを使用する。仕上げ剤には染料を添加使用してもよい。

なお、造花の製造方法は、生花を揮発性の有機溶媒を含浸させて脱水脱色した後、ポリオキシエチレン誘導体溶液を含浸させ、その後に適宜染料を加えた仕上げ剤を適用するのがよい。

【選択図】 なし

特願 2 0 0 3 - 2 7 4 6 7 1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[ 3 9 6 0 1 3 9 0 5 ]

1. 変更年月日

1 9 9 6 年 6 月 1 7 日

[変更理由]

新規登録

住 所

京都府京都市西京区山田猫塚町 1 7 番地の 8

氏 名

株式会社京華クラフト

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning  
Operations and is not part of the Official Record**

**BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☒ **BLACK BORDERS**
- ☐ **IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- ☐ **FADED TEXT OR DRAWING**
- ☐ **BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- ☐ **SKEWED/SLANTED IMAGES**
- ☐ **COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- ☐ **GRAY SCALE DOCUMENTS**
- ☐ **LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- ☐ **REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- ☐ **OTHER:** \_\_\_\_\_

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.**